

千歳第四発電所での暮らし

林 嘉 男

恵庭市議会議員

産婆さんのこと

一九四六年八月十日に私は千歳川上流にある第四発電所で生まれました。太平洋戦争に負けた翌年のことでした。その日、私他には第三発電所で大西篤くんが生まれています。当時、産婆さんは千歳市内の井上さんという方が来ていたそうです。篤くんは深夜に生まれ、私は明け方に生まれたそうですから、産婆さんは一睡もせずに二人の男の子を取り上げたと思われます。当時、第四発電所には一〇世帯が住む社宅がありました。一棟二戸長屋が五軒で発電所の川沿いの土手の上にあります。

戦後まもなく出産が多かったことから、産婆さんも大忙しでした。特に、冬場は馬そりに乗って千歳から発電所まで駆けつけなければならず、急いでわだちを踏み外してひっくり返り、なかの炭火で足をやけどしたこともあったと聞いています。

発電所は千歳川沿いに第一から第五まであって、そこで働く従業員の子どもが五〇人ほどいましたから出産は産婆さんと隣近所の奥さんたちが手伝って、そこにはいくつものドラマがあったと聞いています。

熊のこと

この世の中で一番恐ろしいことは「地震・雷・火事・オヤジ」と聞いていました。私は大きくなってからも「オヤジ」のことを「熊」だと思っていました。春と秋には、熊が民家近くに出没することが多くて、出会った

人も多くいました。昭和二十九年九月二十七日、一五号台風の翌朝、倒木で道がふさがれ、バスが不通になり、徒歩で集団登校している時に熊に遭遇しました。子連れの熊は、四〇〇メートル前方にいました。一〇人ほどいた子どもたちは、声を出して泣きました。通りかかったそまふ杣夫が、私たちを引率して熊が通り過ぎるのを待って無事でした。熊の被害にあった話は、冬の大人たちの夜話でよく聞かれました。子どもの頃から、山で遊び、川で魚とりをする機会がたくさんありましたが、熊のことが頭から離れたことはありません。

山の小学校

水明小・中学校に入学したのは、昭和二十七年のことです。そのころは、軽便鉄道が既に廃止されて第四発電所から苦小牧までバスが運行されていました。朝七時三十分頃にバスが第四発電所の「山の上」から出発し、三十分ほどで第一発電所にある水溜みずためにある学校に到着するという毎日でした。入学当時は複式学級で一年生と四年生、二年生と五年生、三年生と六年生が同じ教室の中で一人の先生に授業を受けていました。音楽の時間、私が大きな声で独唱すると背中合わせに授業を受けていた姉が「ばかみ



写真-1 山の子どもたちと七夕祭り

たいな大きな声で歌わないで」と休み時間中に頭を叩かれたこともありま
す。今では、考えられないことですけれども、算数の時間、私が先生に答
えを迫られると、背中合わせの姉が答えを言っつてしまい、二人とも廊下で
立たされたということもあります。

「山の学校」のユニークなところは、秋には学校で冬場使うマキスト
アの柴拾いに半日出掛けて、その間、先生が山の中で歌をうたったり、国
語の文章の暗唱なんかをさせられることです。苺つみや、炊事遠足などの
課外授業が多く、今もそのことが懐かしく思い出されます。冬は、三〇〇
坪ほどある屋外グラウンドに放水してスケートリンクをつくり、スケートを
楽しみました。先生は、小学校のそばの教員住宅に住んでいて、発電所の
従業員と一緒に所内の行事に参加し、先生と父兄の絆がしっかりし
ていたように思います。

当時、藤の沢（第四発電所と第三発電所の中間にあつた）にも子どもた
ちがいて、水明小・中学校に通うことになりました。藤の沢の子どもたち
は弁当を食べるときに、惣菜を手で隠して食べる子もいたりして、教室全
員の子が弁当を手で隠して食べるようになりました。昼になる一時間くら
い前から教室の窓際にあるストープの上にアルマイトの弁当を置いて温め、
熱くてやけどをした記憶があります。その頃の弁当の惣菜は、梅干と佃煮
と卵焼きがあれば良いほうでした。

発電所のこと

昭和十五年十一月、私の父は第四発電所の従業員として採用され、同三
十五年恵庭発電所に転勤するまでの間二〇年間、家族とともに、山で発電
所生活をしました。父は、私が小学四年生の夏、発電所で鉄柱を担ぎ、四
万ボルトの裸線に吸い寄せられるという事故に遭いました。四万ボルトの

電流が、どんなものなのか私にはすぐには飲み込めませんでした。病院
に運ばれた父の右肩から右手に電流が抜けた大きな穴を見たときに、電流
の恐ろしさを知らされました。父は奇跡的に助かり二カ月間で退院しまし
た。電流事故や堰堤での作業事故は幾度かあつて、危険を伴う仕事でした。
その後、毎朝、神棚に手を合わせ、ゴム手袋とゴム長靴を履く父の姿を見
ながら、事故のない毎日がいかに大切かということを知りました。

発電所の人びと

第四発電所のすぐ下流に国営のさけ・ますふ化場がありました。師走に
入ると孵化場の職員の人々がホツチャレと言つて産卵後の鮭を持参してくれ
たことがありました。鮭はふ化場の周辺に秋口になると川が真つ黒くなる
ほど遡つてきて、産卵し、よく鮭の群れの中に棒を立てても倒れないとい
う話がありました。そのくらい群れた鮭が遡ってきたものです。父は、
青年時代からラジオを作ることを得意としていたので、藤の沢に住んでい
る人たちがラジオの修理を頼みによく家に来ていました。

小学五年生の時に火事がありました。二軒隣の社宅から出火して木造長
屋は瞬くまに燃え上がりました。消火設備の無かつた当時は、川から手押
しポンプで放水したあとは、社宅の周りにあつた洗濯用の共同井戸の水で、
大人も子どもも一緒に消火にあたりました。夜だったので、炎は大
きく空までのぼり、二軒隣の第三発電所からも見えたということです。第
三発電所の従業員が数名、走つて加勢に来た時、大きな拍手があつたの
を今も覚えています。

発電所のメインイベントは夏の小学校運動会と冬のスキー大会でした。
大人から子どもまで総出で、数日前から準備をし、大会を盛り上げていま
した。運動会は大人の競技もあつて、小学校の運動会と言つよりは、村内



写真-2 発電所の人びとと山の大運動会

したことを覚えています。

山の音・川の音

生まれてから十三歳まで川の音を聞きながら育ちました。都会に住むようになって車の騒音で眠れぬ日、川の音の入ったCDを聞きながら眠ることが最近、ずいぶんと多くなりました。山の音もそうです。小鳥のさえずり、夕暮れ時になくカラスの鳴き声、ヤマガラやウソなどのさえずりもいまでも鮮明に覚えています。今思ふことですが、あの広大で厳寒の自然環境の中で育ったことが私の最大の自慢です。

の交流行事でお祭りのような賑わいでした。

買ひ物は、千歳よりも苦小牧が多く、王子製紙が経営する苦小牧の配給所で日用品や雑貨を買ったため、土曜日や日曜日は、家族連れで買出しをしたものです。

父は、千歳や恵庭に知り合いが多かったため、夏場は、私を自転車の荷台にのせて、よく千歳や恵庭に買ひ物に連れて行ってくれました。千歳の古谷呉服店の店内の広さと品数の多さにびっくり

千歳発電所のおいたち（主なる出来ごと）
「千歳発電所ふるさと会」が編さんしたもの。表記等、一部修正を加えた。

43	43	43	42	42	41	41	41	40	40	39	38	37	37	36	27	27	18	7	4	明治2
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	4
7	6	4	10	5	9	7	6	9	5	6	3	10	38	9	28	3	2	2	12	20
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
31	17	18	15	17	15	12	20	6	26	10	26	10	10	10	26	26	8	8	8	20
<p>千歳郡・烏柵舞村として誕生 樽前山大噴火・樽前（現苦小牧市）地方火山灰二五〇を記録 樽前山大噴火（その他の記録なし） 右に同じ（ " " ） 支笏湖に姫鱒養殖の仮ふ化場出来る 日清戦争 鈴木梅四郎専務一行、支笏湖周辺・苦小牧地方視察 日露戦争 支笏湖地域に於ける一切の水利権願い道庁を提出 （明治三十八年四月十五日許可） 千歳川カマソウの滝付近（現在の第二発電所付近）に水力工場新設を道庁に出願（明治三十九年四月七日許可） 千歳第二発電所水利願書、道庁へ提出 支笏湖口より烏柵舞（カマソウ）に至る水路工事並堰堤工事着工 苦小牧分社発電所工事、大倉組に請負せる 山線、苦小牧村より烏柵舞（水溜）支笏湖まで開通 ネッソウの滝下に工所用仮発電所完成（出力四〇〇馬力・三四五ボルト・三〇七ボルトアンペア） 苦小牧工場・仮発電所間の送電線路完成 樽前山大噴火、道庁の命令に依り工事関係者苦小牧へ避難 降灰地域八五キロメートルに及び（別の資料に三月三十日と記録） 滝の上堰堤並水溜工事完成 発電所第一期工事完成（二五〇キワット×四台） 苦小牧工場まで一五〇〇馬力送電線路完成 苦小牧工場新聞用紙抄出（一〇〇m/c）</p>																				

明治43・9・12	苦小牧工場新聞用紙の販売開始(創立記念日)
44・11・19	小樽電気株式会社への売電(四一〇馬力)「札幌線」
45・1・15	札幌水力電気株式会社へ売電(二〇〇〇馬力)
大正1・10・1	王子小学校第一発電所高台にて開校(大高先生夫妻)
3・6	発電所第二期工事完成(五号機五〇〇キワット)
4・4・1	千歳村・烏柵舞村と合併、千歳村字烏柵舞となる
5・3	カマソウの滝付近に千歳第二発電所完成
5・9	発電所第三期工事完成(六号機五〇〇キワット)
6・3	王子小学校第一回卒業式(小西寛氏他六名)
7・7	千歳第三発電所完成
7・9	第一次世界大戦(不況・・・米騒動起る)
8・12	王子病院千歳診療所出来る(鈴木定一先生)
9・1	千歳第四発電所完成
9頃	水溜に鎌田豆腐店開業(昭和十九年廃業)
10頃	谷本亀氏発電所に郵便取扱所開設(昭和十年局になる、昭和十二年十二月支笏湖へ移る)
10頃	水溜に及川商店・谷本商店出来る(昭和十九年頃廃業) (その後田尾商店・・・浜崎商店になる)
年代不明	水溜に請願調査、住宅を置く(後駐在所)昭和二十年頃支笏湖へ移る)
年代不明	一三時頃、中社宅春日井氏宅より出火、二棟八戸全焼す
年代不明	支笏湖水位低下に依り川掘りする
10・5・1	苦小牧市街大火で大半焼ける、工場社宅被害なし
11・7・22	撰政宮支笏湖・発電所方面に行啓
12・2	樽前山大噴火(この年四回程有り)被害不明
12・4・1	王子小学校に高等科設置三学級に成る(川崎校長)
12・4・8	大暴雨有り発電所各地に被害有り
14	水溜に説教所(満願寺の前身)出来る
14・6・26	三時三五分頃、第一発電所三号水圧管破裂に依り土砂所内に流入

昭和2・9・2	連日の大雨に依り支笏湖水位上昇、昭和十一年十月まで旧川放水
2・12・4	小川徳太郎氏感電事故、火傷を帯び王子病院に入院
3・2	水溜児童合宿落成、第三・第四発及び牛の沢(藤の沢)方面の通学生を冬季期間収容
3・2・21	千歳第一発電所二号水車主弁破裂事故
5・8・20	水圧(流)に依り屋根十坪吹き飛ばす、人命に別状なし
6・4・15	一号・二号・三号発電機冠水使用不能に成る
6・6・12	一五時三〇分頃水溜より大量のゴミを含む土砂押し寄せる、現場内に侵入
6・6・21	王子小学校公立烏柵舞尋常高等小学校に改称(高倉校長)
7・5・3	支笏湖水位急上昇・・・旧川放水する
7・9・28	千歳第三発電所水車主軸亀裂を発見、九月十九日取替完了
10・9・28	千歳第一発電所No五号機風導増設工事始まる
11・5・2	この日九時～四時頃まで未曾有の大豪雨あり、被害甚大なり、第二発電所付近に於いて大小十カ所山崩のため放水路・道路・埋没、決壊し所内浸水、第一に於いて溢水路埋没土砂に依り事務所・修理工場埋まる、その他電柱倒折損事故多し
11・7・11	発電所屋根コンクリート張りよりマルソイ直張りに改良す
11・8・19	大雨有り(滝上二四七・六ミ、水溜二〇八ミ)滝ノ上水位六・〇一〇
15・2・16	規定より約五〇センチオーバー、旧川放水、下流各発電所少々被害有り
15・7・10	九時頃滝ノ上取入口川側壁隧道口より五五センチ崩壊事故発生
15・7・16	十月五日復旧工事完成す、四七日間
16・2・8	支笏湖取入口川ザライを施工
16・2・8	千歳第二発電所水車主軸折損事故発生
16・2・8	千歳第五発電所完成
16・2・8	太平洋戦争起る、従業員並子弟の出征始まる

27	26	26	26	26	26	25	25	25	25	24	24	24	22	22	21	21	21	20	19	18	17	昭和
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	昭和
11	10	10	5	5	5	11	8	8	30	8	4	1	25	5	4	4	8	8	20	7	7	17
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
3	9	36	5	11	1	20	1	1	1	1	1	24	25	14	11	10	15	20	20	17	17	5
<p>千歳村・町制施行、千歳町字烏柵舞となる 千歳第二発電所堰堤水路にて工藤政次郎氏殉職す 防空のため現場外壁ペンキ塗り 陸軍施設部隊駐屯 太平洋戦争終る。復員始まる 王子製紙労働組合千歳支部結成大会 勤務制度・三交替八時間制度に成る 米軍（進駐軍）千歳の町へ・・・世情騒々しい 送電線路（場所不明）山火事に依り電柱三本焼く 発電所青年団組織として新生会発足、昭和二十五年まで続く 発電所お祭りに職場相撲大会開く 小学校校舎水溜に移転落成 中学校千歳分校として開校・・・後の水明中学校 王子製紙G・H・Qの命に依り三社に分割・苫小牧製紙となる 山線、丸山（十三哩）よりバスに変わる（丸山・水溜・第四間） 昭和二十五年より秋（九月）に所内運動会を開催す 七月三十一日より苫小牧地方に大豪雨有り工場内に侵入運転不能となる、午後まで送電停止 千歳第二発電所水車主軸折損事故 冬季期間毎年スケートリンク造る・・・スケート大会 烏柵舞村の内、発電所一帯を水明郷と改称 烏柵舞小学校を水明小・中学校と改称 千歳第一発電所配電盤改修工事始まる。昭和二十八年八月十日終了 山線・全線バス運行となる お祭りに樽みこしの行事（毎年） 千歳第一発電所配電盤改修工事に具るO・C・B工事で、竹野初太郎氏殉職 水明小学校四十周年記念式典（王子小学校以来）</p>																						

38	38	37	36	35	35	35	35	34	33	33	32	31	31	30	30	30	29	29	29	29	28	昭和
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	昭和
		42	5	9	8	37	9	9	12	7	2	12	10	12	10	9	9	6	2	9	3	28
			24	26	1		11	11	1	7	7		15	15	15	30	29	29	3	20	20	3
<p>滝の上取入口支笏湖より大量の流水のため取水不能となる 高坂富蔵さん熊に襲われて死亡 樽前登山盛ん・・・スキーブーム 従業員家族札幌へ旅行（動物園・植物園） 従業員、家族、支笏湖・オコタンペ湖にハイキング 水明小・中学校校舎改築落成 従業員、バス（専用バス使用）にて尻別発電所へ研修旅行 千歳第一発電所一・二号水圧管改修工事完了・・・通水式 千歳第四発電所社宅一棟二戸全焼 千歳第一発電所三・四号水圧管改修工事完了・・・通水式 千歳第二発電所自動化完成、第一発電所より遠方制御方式に成る 千歳第四発電所自動化完成、一人制御方式に成る 千歳第三発電所自動化完成、一人制御方式に成る 千歳市市制施行、千歳市水明郷と成る 千歳第五発電所自動化完成、第一発電所より遠方制御方式に成る 王子争議一四五日間のストライキ 自動化に依り第三・四社宅水留に集中化・・・勤務員ジープにて通勤体制と成る 第一・二・滝の上社宅水溜に集中化 恵庭発電所自動化完成、一人制御方式に成る 王子専用バス、王子不動産に移管 王子製紙工業株式会社より王子製紙株式会社に改称 （昭和二十七年六月、苫小牧製紙より王子製紙工業に改称） 従業員、家族、石狩方面へ旅行 支笏湖畔（丸山地区）植樹祭に天皇・皇后両陛下御臨席 大相撲場所毎に星取勝負始まる 診療所廃止・・・鈴木定一医師定年退職 満願寺・・・廃寺、中央院（苫）に移管</p>																						

昭和 38・9	クラブを水溜に移改築の上、厚生会館と早川工場長が命名
39・4・3	水明小学校廃校、支笏湖小学校と統合、児童バスにて通学
39・9・9	千歳川神社水溜公園に移る
40・9・9	室蘭(日鉄)・定山溪方面へ研修旅行
41・3・15	水明中学校廃校、中・高生徒苦小牧へ通学
41・9・1	恵庭発電所の操業を雨竜電力KKに移管
41・9・1	従業員積丹方面に研修旅行
41・11・11	千歳第三発電所水車発電機改造工事完成
42・8・27	千歳発電所一連の昇圧工事完成す
42・12	村上所長送別大相撲星取に依る土俵入り
43	従業員函館方面に研修旅行
44・1・30	千歳第一発電所一号工事、配電室工事完成
44・8・23	小寺リゼさん千連線(社宅より三〇〇㍍)付近にて、熊に襲われて死亡
47・7・1	雨竜電力KK従業員(漁川)王子製紙に採用(恵庭発電所無人漁川より制御)
48・10	千歳第二発電所水車主軸折損事故
49・5・5	発電所最後の親校会
49・6・21	組織改訂に依り勤務員苦小牧より通勤
49・9・12	発電所従業員・家族のお別れ会
49・10	発電所解散会(於苦小牧成志会館)